

家族のつながり

小川 辰雄

何年か前に内閣府のホームページを見たら「家族と一緒に過ごす時間」という調査結果が記載されていました。

その中で、30代から40代の働き盛りの人たちは、家族と一緒に過ごす時間が持てないと回答されたのが、全体の3割だそうです。

その要因の一つは、長時間労働による家族みんなが一堂に集まる時間が持てないことです。また、10代では、家族との団欒が1時間未満の子どもが大半を占めています。自分の部屋で過ごすほうが多いということでした。

私の地域では、まだ一緒に過ごす家族のほうが多いように思いますが、でも、ここ数年で両親と同居する家族は少なくなってきました。核家族化が増え、生活環境が都市化してきたからだと思います。今では長男が必ずしも家を継がなくてはならないという風潮もなくなったような気がします。

そのために家族のそろう“場”がなくなり、つながりがますます希薄になってきているようです。

世の中が、少しずつ家族とのつながりを持てなくなるということは、お寺においても、ご門徒さん家族との関係性も段々と薄れてしまうような気がいたします。私も常日頃どのように寺に身を置き、どのような姿勢でご門徒さんとお出あっているか改めて問われていることです。

では、家族とのつながりの時間を作るためには、「家族がそろう」場を持つしかないのでしょうか。一人も欠けることなくそろう、非常に難しい事ではあるけれども、今の世の中にとっては大切なことでもあります。

「そろう」という言葉は「ととのう・集まる・きちんと並ぶ」という意味があります。家族がきちんとととのう場所は、家庭であり、仏様の前であります。そこに立つことが家族とのつながりの場所になるのです。

私自身も、失われつつ居場所を、仏縁をとおして確かめあう場にしていかなければならないと思っています。